

会議録

会議の名称	令和7年度 第5回 西東京市青少年問題協議会
開催日時	令和8年2月9日(月) 午前10時から午後11時30分まで
開催場所	田無庁舎5階 503会議室
出席者	出席委員：高松副会長(座長)、井上委員、今井委員、下田委員、鈴木委員、瀬沼委員、田村委員、西原委員、平井委員、村上委員、山崎委員 事務局：遠藤子ども若者部長、菱川子ども若者応援課長、宮田子ども若者応援課子ども若者計画係長、園田子ども若者応援課子ども若者計画係主事
議題	協議事項 活動テーマの検討について
会議資料の名称	会議次第 資料1 第13期活動テーマに係る意見
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>○副会長(座長)： 令和7年度第5回西東京市青少年問題協議会を開催する。</p> <p>1 協議事項</p> <p>○座長： 第4回協議会で出た意見が資料1にまとめられている。前回の議論を振り返りながら、引き続き活動テーマについて議論したい。</p> <p>○山崎委員： 過去の活動タイトルを見ると、2回連続で同じテーマを扱った時期もあるようだ。 また、前回の議論では、高校生は市外から通学する学生もいるため、小中学生に比べて調査が難しそうだという話があったと認識している。</p> <p>○村上委員： 第1期のテーマである、「青少年健全育成のあり方」のようなテーマであれば、前回出た意見を網羅できて良いと思う。</p> <p>○平井委員： 第12期の子どもの居場所の問題を踏まえて、学校や家庭のあり方に関する議論を子どもの立場からより深めていく必要があると思った。具体的には、資料1の5番以降の内容をテーマにできれば良いと考えている。</p> <p>○西原委員： 私の周りでは、PTAの存続に関する話題がよく出る。PTAが無ければ、保護者は学校に何をしてほしいか言う機会がなくなってしまう。子どもやその保護者が何か問題</p>	

を抱えても、どこにも相談できない状態が問題であると感じている。資料1の2番、3番のような内容をどこかで捉えていく必要があると思う。

○田村委員：

テーマにかかわらず、子どもの意見を直接聞くという要素は取り入れていきたいと考えている。第12期はオンライン時代の居場所を知るというテーマで活動し、支援する側の視点に立った報告となったので、第13期は同じテーマで、子どもたちの視点に立った内容で進められると良いと思う。

○瀬沼委員：

私も地域や学校とのつながりが強い立場にあるが、最近は子どもの体験格差を感じている。育成会等もそうだが、地域として子どもたちに何をしてあげられるのか考えていけると良いと思う。

○鈴木委員：

資料1の2、3、5番が特に気になっている。不登校に関しては、小中学生の時は保護者がある程度情報を得ることができていても、高校という切れ目で情報が得にくくなるという状況がある。スキップ教室も対象が中学生までなので、高校生以降のことを心配する保護者もいる。

このような現状を見ると、子どもの居場所問題が地域任せになっていると感じる。PTA活動が共働き世帯の増加等で縮小傾向にあり、育成会等の地域活動も担い手の高齢化等により活動が難しくなっている。

不登校児を含めた子どもの居場所づくり等の地域活動に、新しい世代をどう引き込んでいくか、考えていけたら良いと思う。

○下田委員：

資料1の1番の子どもの意見を直接聞くということは、どのテーマになっても共通することだと思う。学校や行政が子どもにどのような支援をどこまですべきかという見極めは、子どもに意見を聞きながら行っていけると良い。2番のようなテーマで、子どもの意見を聞いて進められると良いと思う。

○今井委員：

資料1の2番のような、地域とのつながりは私も気になっている。私は、子どもにとって保護者と学校と地域が大切だと思っていて、PTAや育成会の方もそのような考えを持つ方が多いと感じる。

一方で、PTAや地域活動等にあまり関わりのない保護者はどのように思っているのだろうか。日中仕事があって関われないのか、そもそもそのような活動自体を必要としていないのか、保護者の考えを知りたいと思う。

○井上委員：

テーマを決めるにあたり、過去の報告書に目を通してみた。以前は親の教育力やつながりの話もあった。以前、青少年育成の4つの柱として、「温かい家庭」、「楽しい学校」、「顔の見える地域」、「支えてくれる行政」が提言されていたが、今はこの4つ

の柱もそれぞれ状況が変わっていると感じる。

人手不足でPTAが解散している学校もあるが、意見を出したり保護者同士がつながったりする場所が無くなると、困ったときにどうするのだろうか心配に思う。

また、保護者が仕事等で忙しく、家庭での会話が少ない状況にある子どもが、困った時に周りの人へ相談できるのかも心配に思う。まずは、子どもが家庭で何を言っても受け入れられていることが大切だと思う。

資料1にある地域との関わりや、子どもの意見を直接聞くという点では、地域のお祭り等のイベントで、行政と連携して相談できる場所を設けたり、子どもがお祭りの企画に関わる機会をつくることで、子ども自身が地域活動を支えていると実感したりできると良いと思う。

○座長：

子どもの声を直接聞くことに加え、地域や保護者というキーワードが多く出ている。これらを包含するような「子どもの多様化する育ちと『居場所』を考える」というテーマはどうか。

○西原委員：

テーマ案は良いと思うが、先ほど不登校の高校生世代に対する支援情報が途切れがちになっているという話があった。

地域共生課で引きこもりの支援が始まったが、高校生世代や大人に差しかかった人への支援の充実も青少年問題協議会として提言等できると良いのではないか。何かしら方向性を持って報告書を作成できると良いと思う。

○今井委員：

「子どもの多様化する育ち」とはどのような意味か。

○座長：

共働き世帯の増加やSNSの利用等、子どもを取り巻く環境の変化を、子どもを主語とした時に、「多様化する育ち」と表現できると考えた。

○西原委員：

「子どもの育ち」という表現は、不安や緊張感を感じる人もいるかもしれない。「子どもの育成環境と居場所」というテーマはどうか。

○田村委員：

「多様化する」という言葉は、「子どもの育ち」と「居場所」の両方にかかる認識で良いのか。

○座長：

両方にかかる認識である。

テーマ案について、他に意見はあるか。

○西原委員：

育成環境と居場所について、委員の皆さまのイメージも一緒に伺いたい。

○井上委員：

育成環境だとかたいイメージがあるので、取り巻く環境という表現が良いと思う。居場所というと、まずは行く必要のある場所のことをイメージするが、ここでいう居場所とは、心の休まる場所という意味で捉えている。

○今井委員：

多様化する育ちということで、地域や学校との関わりの実態について知りたいと思う。また、今の保護者と子どもが求めていることや困っていることを聞いてみたい。

○下田委員：

テーマ案については良いと思う。多様化する育ちと居場所には、子ども視点と保護者視点の2つの視点があり、どちらも多様化が進んでいると思う。子どもが求めているものと保護者の求めているものの違いや世代間のすり合わせができると良いと思う。

○座長：

テーマを育成環境にすると、保護者の視点も含まれると思う。「育成環境」と「居場所」のイメージについても委員の皆さまに伺いたい。育成環境というと、家庭や学校等を想起するのだろうか。

○下田委員：

家庭のイメージが強いが、学校や行政、地域の方も関わるものだと思う。

○鈴木委員：

様々な子どもの居場所が存在するので、それぞれの居場所の現状を聞けると良いと思う。お祭りで相談できる場所というアイデアは、カジュアルで良いと思った。

以前から続いている育成会のピーポくんの家活動も、近年は保護者からの意見もあり縮小傾向にある。今の世代の保護者との考えの違いを感じており、もっと今の世代の考えを知りたいと思う。

○瀬沼委員：

私も居場所づくりに注力して活動しているので、居場所という言葉は良いと思う。「育ち」については、私自身は、育ちが良い悪いという言葉イメージしてしまう。「育成環境」については、家庭もあるが、子どもが長時間過ごす学校の存在も大きいと思う。

子どもの意見を直接聞く際、「育成環境」を子どもへどう説明すればよいのだろうかと思っている。

○田村委員：

テーマ案は良いと思う。「居場所」については、明確な場所を指すだけではないと思う。その人が一番自分らしく居られる時という意味合いもあるものだと思う。

○西原委員：

育成環境に、子どもが長時間過ごす学校という視点は必要だと思う。子どもの視点に加え、学校側が考える問題点等も視野に入れられると良いと思う。

多くの人が誰かにつながりたいという気持ちを持っていると思うので、居場所とは、家庭やSNS等人とつながれる場所のことだと考える。

○平井委員：

青少年問題協議会は、子どもを中心とした議論の場所だと捉えて活動してきた。

「子どもの居場所」というと、子どもの立場にたったテーマであるが、「育成環境」となると、PTAや育成会等、子どもの周りの大人たちが中心のテーマになってしまうように感じる。

○座長：

テーマは子どもの視点を中心としたものに絞り、育成環境については、その議論を進める上でふれていくという進め方が良いかもしれない。

○平井委員：

子どもの居場所を議論する上で、自ずと子どもの居場所をつくる大人側の話にもなると思うが、育成環境をテーマに入れると、話が大人側の視点に寄り過ぎてしまうため、育成環境という言葉はテーマには入れる必要はないと思う。

○村上委員：

私の周りでも、最近は保護者の目があるからか、子どもと直接的な関わりを深めないことが多い。

以前は子どもが良くないことをすると地域の大人が注意していたが、今それをしてしまうと110番通報につながることもある。以前と比べ、地域とのつながりは難しくなったが、子どもからのSOSを受け取る場所を設けてあげれば、自らかけこみ、出来事を伝えられる子どもは多くいると感じる。そのような場所をつくるのが、今の子どもにとっては良いのではないだろうか。

また、子ども視点の話か、周りの視点の話かということを見ると、育成環境をテーマに入れるのは難しいと感じる。

○山崎委員：

私の立場では、今の子どもが求める居場所とは、建物や地域性等ではなく、自分の時間や空間と捉えている場合が多いと感じる。それは保護者にも言えることで、10年前、20年前とは状況や求めているものが異なるように感じる。

例えば、今の保護者には育成会が何なのかわからない方もいるし、仕事をしている中でPTAや育成会等の活動に参加しなければならないことを相談される方もいる。そのような背景を踏まえると、子育ての環境としてPTAや育成会の活動ありきで話を進めること自体が難しい面もあるのかもしれない。

○井上委員：

テーマとしては、全体的に包括できるのが良いと思うが、資料1の意見をそれぞれ

深堀していくと良いまとまりになると思う。

○座長：

今までの意見を整理すると、「多様化する子どもの『居場所』を知る・考える」というテーマが良いと思う。居場所とは、物理的な場所だけではなく、時間や空間等も包含するものとして捉え、それを深堀する形で進めたいと思うが、いかがか。

(異議なし)

○座長：

第13期の活動テーマは、「多様化する子どもの『居場所』を知る・考える」とする。その他について、事務局から何かあるか。

2 その他

○事務局：

今回の会議は、4月17日（金）午後2時から、田無第二庁舎4階会議室を予定している。後日開催通知をお送りする。

○座長：

以上で令和7年度第5回青少年問題協議会を終了する。

閉会